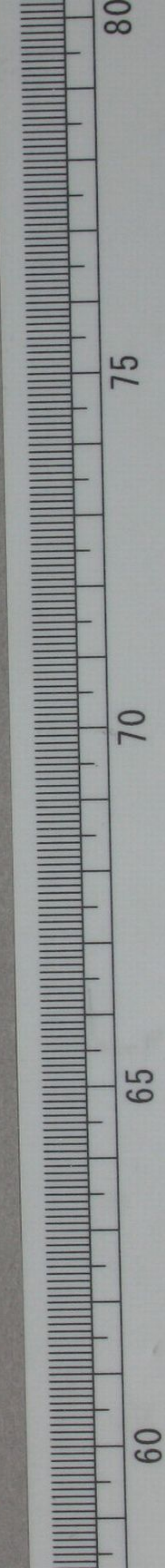




中村俊定文庫  
文庫 18  
881





清國袁氏論詩書曰嘗謂  
 詩有工拙而無古今自葛  
 天氏之歌至今日皆有工  
 有拙未必古人皆工今人



皆拙昂三百篇中頗有未  
工不必學者不徒漢晉唐  
宋也今人詩有極工宜學  
者亦不徒漢晉唐宋也如  
吾國歌亦莫不符於此論  
矣至俳體為最然也淡海  
幻住菴主人蕙逸采輯今  
世名家俳歌數千首上梓  
行世請題辭于余々不欲  
贅蕪言抄錄袁氏之確論

以贈

戊申歲仲春

膳所枚山鼎



いづれにの神は物く

けり本はむと身とちてははひが

禊めをまゝにまゝにまゝにまゝに

おこらこの飯乃枚山

枚山十一ととゆし子らの飯

元禄二辻宮平清三

多うききに皆押合ぬり辻宮

芭蕉抄

元日了 出雲齋

十の指箋 二五頁

取寄ぬわ  
はあぢうぢ  
みま

くさくさ  
あはれ  
まはる

子母解

子母解

羽藏

うゑる持女

永

山陰の杉原

元

山  
頂  
石  
乃

糸  
結  
字  
乃

一  
角

木  
の  
ま  
た  
に  
け  
り

月  
の  
松  
乃  
石  
乃



為清如性

字如性

號

為人如性

字如性

號

21-11  
空の月の如く

さるみや

評也

ほろりきり

一衣のまゝ  
衣

まろり寝乃床

乃漏らる

心もたれ

身は古風若

さしはしらす  
おぼ

お  
ろく

た  
いさ

移る  
うす

た  
お

まほしき  
にみちかた  
かたきふ  
きふ  
きふ

螢たてし  
跡みち  
まほしき  
かたきふ  
かたきふ

猪子物さし

かひら歌

ととてん 正考

おゆえんてん

おゆえんてん

みねのてん

飯粒

於方之

うら

且通

たの

ぬ

ち

り

あはれ  
の

うき

芭蕉

あはれ  
の

うき

芭蕉

芭蕉

人かじりいひまの  
ちあはれくせいの  
うきたかたもか  
形まんなをこころ  
く三つなりと  
うのあはれおろ  
あふれはる心  
あはれはる心

福ひそ

平

初生むいせ  
様のお  
いそ  
連

生



おのれは  
しるし  
雨り  
草子  
閑  
ふ  
は  
な  
し  
と  
も  
ち  
な  
し

海上

おのれは  
しるし  
雨り  
草子  
閑

おのれは  
しるし  
雨り  
草子  
閑

おのれは  
しるし  
雨り  
草子  
閑

五尺七寸  
六寸五分  
七寸五分  
八寸五分  
九寸五分

十五  
十六  
十七  
十八  
十九

角力より  
善くも  
なり  
なり  
なり

角力  
猿の  
子  
の  
丹  
具  
角

拈 拈 拈 拈 拈

と ち ら り と ち ら り

秋 秋 秋 秋 秋

秋 秋

知 知 知 知 知

中 中 中 中 中

時 時 時 時 時



わらあしんえわ  
年々本人の心  
如夢の如く  
あさひよう  
上人喜ぶ  
故より

よきわ  
あはれ  
うらやま

おのれ  
あはれ

下



おねねあふれあは  
ふかしの君 とき成  
あなをさる生つ何  
なつこうじ 智る

草紙帯  
たらへんこころ  
とりの家の君 智る  
あつねをいつたき  
まき深のこころ  
えんねの年しめ

智る



いさよのそと  
雲みこころ  
そ又まき

ゆき舟あはれ  
伊田たけ  
きり

めくやまの  
 のまを  
 うすにも  
 東乃る秋

弘化五  
 善永元  
 戊申年

芭蕉翁并  
 古人真蹟入  
 類題名家發句集  
 中  
 四冊

約住芥主蕙逸編

数枚山鼎序(弘化五年)

梅室跋

野田治兵衛外之軒

地葉調表